

6. 5 きる：アンケート抄-Q. 下着について感じることー

facebook「とある民俗学講師の補足メモ」

- ・誰がための下着：異性のため、同性のため、自分のため？→「社会的事実」としての下着
- ・身体のポリティクス：投票という選択／貨幣という選択／慣習行動という選択

【暑さ・寒さ】職業柄僧侶ですので足袋を履きます。足袋は金具で足首に固定して履くという少し手間のかかるものです。私の地元は盆地で、夏場は非常に暑く、冬場はとても冷え込みます。そのため生地が薄さが季節によって異なります。しかし、本山での研修の際はそのような足袋は禁止されます。

【購買環境】下着のサイズ変化に伴い計測が必要になったが、店員に測られる恥ずかしさからネット注文を選ぶようになった。しかしネットでは、実物の質感や色味が想像と異なる mismatch やサイズミスが頻発する。地元では店では品揃えがあまり豊富ではないため、名古屋の店舗まで足を運ぶこともある。実際に店舗で商品に直接触れ、試着をすることの利点を感じつつも、対面での計測への抵抗感が拭いきれない。

【世代差】親の遺伝で胸が大きかったので、小学6年ぐらいからしっかりめのブラをつけていました。母曰く、祖母は子供の下着に無頓着で、母にはきちんとしたブラジャーをつける習慣がなく、体育の日などは晒して胸をグルグル巻きにして動かないようにしていたら、形が崩れ、早くから胸が垂れてしまったので、子供にはしっかりしてあげたかったとのこと。多分祖母には子供に適切なブラを買わなければという概念がなかったのだと思いました。

【自製品】20年ほどアメリカ西海岸のシアトルに住んでいた。夏以外の9ヶ月は雨続きで、冬季うつ病が蔓延する薄暗い地域なのだが、変わって夏の3ヶ月は、天国のような、理想的な晴れて美しい季節になる。空気が乾燥しているので、日影に入れば汗をかくこともない。ところが、京都の酷暑である。夏には、麻／リネン素材の衣服しか身体が受け付けない。木綿／コットンの服は汗をかいて冷房に当たると冷えて困る。いくら夏用の薄手のブラでも、やはり化繊だと身体が嫌がる。そういう理由で、リネンの布を使用して、自分でブラを作ればいいのではないかと、昨年からはブラの型紙を探しているが、なかなか良い物が見つからない。そこにこの講義の『暮しの手帖』の型紙の登場である。そうか、昔の雑誌を見つけ出して、参考にする手もあるなと思った次第である。

【ブリーフ→ボクサー】小学生のうち、親が買ってきたブリーフを穿いていたが、中高生になるにつれてブリーフをダサイと思うようになり、シンプルなボクサーパンツを履くようになった。下着は基本人に見られないのに見た目を気にするのは不思議だと思った。

【安定感】私が着用するのは基本的にボクサーパンツである。例えば、トランクスはどうにもフィット感に欠ける印象があるが、ボクサーパンツは私の身体にしっかりとフィットしてくれるため、機能性という点において気に入っている。

【解放感】昔はボクサーパンツを履いていた。母曰く、脱オムツをしたときからずっとボクサーパンツであつたらしい。それは、ボクサーパンツが一番かっこいいと思っている母の趣味からであつた。しかし、ボクサーパンツでは、夏は股間がフェスティバルになるので、それが我慢できず高3くらいから通気性の良いトランクスを履くようになった。そのおかげで受験の天王山と言われる夏をクールな股間で乗り越えることができた。

【初めてのブラ】 小学4生の時、突然女子だけが担任の女性教員に集められ、「そろそろパッドがついた下着とかブラジャーを買ってもらって着けましょう。これは女性としてのマナーだし、周りの人への気配りでもあるからね。もし家の人に言いづらかったら先生に相談して」と言われた。母親に言って店に行き、初めてそういった下着を着けてみると、信じられないくらい窮屈だし息もしづらい感じがして、この状態で生活するなんて無理だと思った。当時は先生に対して「何でこんな苦しい思いをさせるんだ」と思っていたが、今思えば不可欠な指導であり、先生や親に感謝している。

【寄せて上げる】 初めてワイヤー付きの下着を買った時、お店に入るのにも緊張しており、サイズを店員さんに測って貰うのも気恥ずかしく、店員さんの顔を見ることができなかった。最後に購入するまでずっと恥ずかしく早く出ていきたいと思っていました。しかし、サイズがあった下着をつけると動きを気にせず、一日中快適に過ごせることに感動しました。

【着痩せするブラ】 最近のぽっちゃり女性の間では着痩せするブラというものが流行っていて、着けると胸周りや脇がスッキリ見えるという広告を目にすることがよくあります。私も気になって買ってみました。少しお高めなのですが確かにスッキリして見えます。他のものよりパッドが薄いのですが、ホック数が3倍くらいになりホールド感があります。感動とまでは言えませんが、確かにスッキリして見えます。でもまずはダイエットをしようと思いました。

【コルセット】 学芸員資格取得の関係で館園実習として京都服飾文化研究財団に行った際、コルセットを着用をした。普段着用しているブラトップは、胸下にゴムがあるほかは、カップによって胸を包むように支えている感覚があるが、コルセットは胸の強調だけでなく、ウエストなど、より全身の補正を行う感覚があり、前面・側面を板で押さえられているような感覚がある。背面は紐で締めあげられている感覚が強かった。思ったほど動きにくい感じはなく、どちらかという息を吸う時に肺が圧迫される感覚があった。動く（座る・屈む）時は背中を丸めるのではなく、腰から上体を折り曲げるようにすれば特に問題はなかった。お腹側を固く固定しているため背中が丸まらないことで、胸を張った姿勢を維持しやすいように感じた。

【ブラトップなど】 ワイヤーの入っていない下着でもけっこうしめつけが強いので学校から帰ってきたらすぐ外してしまいうくらい私にはストレスです。あとホックを背中をとめるのが不器用すぎて出来なかったので母親が縫い付けてくれました。頭からかぶって着ています。

【勝負下着】 ハイビスカス柄のド派手なパンツを大事な試合の日には履いていくようにしていた。

【部活等】 高校ラグビー部では、下着の上からスパッツを履いて練習や試合をしていました。当時はそれが当たり前で、特に違和感を持つこともありませんでした。しかし大学のラグビー部に入ると、多くの部員が下着を履かずに直接スパッツを着用しており、最初はかなり驚いたのを覚えています。実際に自分も試してみると、下着との擦れが減って動きやすく、フィット感も強く、特にタックルや走る動作の中で、余計な布がない分、身体との一体感がありました。

【和装】 成人式の際に和装ブラというものがある事を初めて知った。なぜそのようなものを身につけるのか気になり調べたところ、着物は寸胴体型に似合うように作られており、メリハリのないボディラインを作ることで美しく着ることができそう。また、そうすることで着崩れの防止にもなるという。

【校則】 中学1年のとき、夏制服着用時の下着は白という規定がありました。夏制服は白地のセーラー服だったので、汗等で透けないようにという理由があったのかもかもしれませんが、生徒たちの間ではかなり不評でした。教師側としても注意しづらかったのか、とりあえず注意はされなかったため、ほぼあって無いような校則だったのを覚えています。